

## 2015 年度 第 1 回 スーパーモト委員会 議事録

### 【ダイジェスト版】

開催日 : 2015 年 7 月 22 日 (水) 午前 10 時 30 分～午後 4 時 30 分

開催場所 : MFJ 会議室 (東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

#### 1. 2015 全日本スーパーモト・エリア選手権 開催状況報告

##### 1) 全日本選手権

第 3 戦戦までが終了し、参加者数は、第 1 戦は昨年を上回ったが、全体としては 1 大会平均で前年比 92%と減少傾向である。特に S1PRO クラスの台数が 10 台前後と落ち込んでいる。

台数減少の一因として、毎年コースに変化がないという参加者の意見が報告された。

##### 2) エリア開催状況

東日本 : 4 戦中 2 戦までが終了した。公認クラスの参加者が前年比で 111%と増加傾向である。第 2 戦のエリア初開催となった桶川スポーツランドには A,B 級合わせて多くの参加者が集まった。桶川は関東圏の開催地として普段からスーパーモトライダーも多く、またロードレースライダーがスーパーモトの練習をしていることが報告された。

中日本 : 4 戦中 2 戦が終了した。いずれも美浜サーキットで参加者も 20 台超でほぼ同数であり、前年比で微増となった。

西日本 : 4 戦中 3 戦が終了した。参加台数は前年比で 96%と減少傾向。とくに第 2 戦 HSR 大会は S1OPEN クラスが不成立になるなど厳しい状況である。

##### 3) 女子モタ開催報告 (HSR 大会)

全日本第 2 戦 HSR 九州大会において、承認併催のレディースクラス“女子モタ”が開催されたことが報告された。

##### 4) アジアスーパーモトについて

新しいプロモーターによって 6 月からアジアスーパーモト選手権が開始され今年は今全 4 戦が開催される。日本からは第 1 戦に佐合潔、濱原颯道、佐々木貴志の 3 選手が参戦した。

##### ○ 日本人ライダーの参加条件の設定について

シリーズは始まっているが現在日本人ライダーの参加条件の設定がなく、ライセンスさえ持っていればエントリー可能な状況になっていることから、来年に向けて最低限の参加条件を設定すべきとの事務局より提案された。

しかし、現段階では選手選抜に関してプロモーター側の条件などが不明瞭であり、プロモーターと選手間の契約形態などもわからないため、引き続き事務局にて情報収集することとし、現段階では参加条件の設定や積極的な参加促進は行わないことが決定した。

##### 5) ライセンス取得状況

2015 年度ライセンス発行枚数 (6 月末現在前年同月比) は、スーパーモトは A 級 179 名、B 級 119 名合計 298 名 (前年同月比 98%) である。

地区別では、北海道・東北・関東・中部・四国地区で昨年を上回っており、近畿・中国・九州はまだ下回っている。

#### 2. 2015 全日本スーパーモト選手権シリーズランキング中間報告

2015 年全日本スーパーモト選手権第 3 戦終了時点の中間ランキングが報告された。

### 3. 2016 競技会カレンダーについて

2016 年に開催される全日本スーパーモトおよびエリア選手権の開催希望日程が各主催者より提出され、下記の暫定日程を軸に調整されることとなった。 ※開催日・会場とも変更の可能性あり

#### <2016 全日本スーパーモト選手権カレンダー【暫定】>

第 1 戦	4 月 24 日	美浜サーキット
第 2 戦	5 月 22 日	HSR 九州
第 3 戦	6 月 12 日	エビスサーキット
第 4 戦	7 月 3 日 or 10 日	桶川スポーツランド (予定)
第 5 戦	7 月 24 日	TS タカタサーキット or グリーンパーク弘楽園
第 6 戦	8 月 21 日	スポーツランド SUGO
第 7 戦	9 月 18 日	琵琶湖スポーツランド
第 8 戦	10 月 16 日	名阪スポーツランド
第 9 戦	11 月 6 日	茂原スポーツランド

#### <2016 スーパーモトエリア選手権カレンダー【暫定】>

東日本エリア	中日本エリア	西日本エリア
①4or5 月予定 桶川	①4 月/3or10 日 美浜	①5 月 8 日 弘楽園
②6 月 12 日 エビス	②4 月 24 日 美浜	②5 月 22 日 HSR
③7 月 3or10 日 桶川	③9 月 18 日 琵琶湖	③7 月 10 日 タカタ
④8 月 21 日 SUGO	④10 月 16 日 名阪	OR 7 月 24 日 弘楽園
⑤11 月 6 日 茂原		④10 月 30 日 HSR

### 4. 全日本選手権規則・運用等について

#### 1) ウェアラブルカメラの車両装着 (オンボードカメラ) について

今年ウェアラブルカメラのライダー (装備) へ装着は禁止されたが、規則上は、車両への取り付けは可能である。しかし、全日本スーパーモト第 1 戦の前日走行において走行車両からカメラが脱落した事例を踏まえ、全日本では第 3 戦までは安全面を優先し全面禁止として運用してきた。

現状では、取付可能位置など不明瞭なため、エントラントが個々に判断して装着可能であり、車検でも取り付けの安全性を的確にチェックができない状態である。(判断基準がない)。

カメラ装着希望者も数名いることから、安全上の観点で MFJ セーフティー委員会より示されたカメラ取り付けに関するガイドラインを基に、次戦より装着を認め運用を開始すべく事務局より取り付け位置および運用案が提案された。

#### 決定事項

希望者がカメラ使用の遵守事項を厳守することを条件に、下記の通り全日本スーパーモト第 4 戦よりオンボードカメラの使用を認める。

- ① カメラ使用希望者は、別途定めるカメラ使用遵守事項を厳守し、大会ごとに申請書兼誓約書を提出の上、必ず車検にて最終的に使用許可を得る。(手数料は不要)
- ② 取り付け可能位置は、フロントフェンダー上、またはリアフェンダー上のみとし、取り付け方法は、ボルトで固定する (またはそれに準ずる) こと。
- ③ 許可された車両は、当該競技会における公式練習・予選・決勝にてカメラ使用を許可されたものとする。

上記内容を MFJ ホームページおよび全日本第 4 戦にて公示する。

## 2) レース終了後のピットロード出口の閉鎖について

全日本第 2 戦において、レース終了時（チェッカーフラッグが振られたタイミング）にピットロード出口が閉鎖されたことに対し、大会ごとに対応が異なるとのライダーより指摘があった。安全上も考慮し、全戦で統一したい。

### 決定事項

- ・ チェッカーと同時にピットロードの出口は閉鎖する。
- ・ 2016 年の競技規則にも下記の通り追加する。

#### 32 レース終了

**32-1-3 トップのライダーにチェッカーが掲示されたと同時に、ピットロード出口は閉鎖される。**

## 3) スタート進行規則の変更

### 決定事項

- ・ スタート進行中の 3 分前ボードが提示された時点で、マシンの交換は不可能であることから該当規則（下記 25-2-4）赤字箇所を削除する。

#### 25 スタート方法

##### 25-2-4 ウォームアップラップ開始 3 分前ボード

すべての調整は『3 分前』のボードが出るまでに完了しなければならない。

この時点で、タイヤウォーマーを取り外さなければならない。

また、エンジンの始動を手伝うため、ライダー 1 名につき 2 名のメカニックとそのライダーのためにパラソルを持って立つ 1 名、および必要なオフィシャル以外人間は全員グリッドから退去しなければならない。さらに調整を行うことを希望するライダーはマシンをピットレーンまで押していき、そこで調整またはマシンの交換をすることができる。この場合当該ライダーはピットレーンからウォームアップラップを開始する。

- ・ T カーの使用は認められないことを競技規則に明記する。

## 4) 赤旗中断後の再スタート時の進行について

レース中の赤旗中断後のスタート進行について、現状では詳細が規則に明記されておらず、主催者、エントラントともに共通認識がないため、ライダーがパドックに戻ってしまったり、再スタートまでの時間がかかってタイムスケジュールに遅れが発生につながる可能性がある（第 3 戦のエビス大会にて事例あり）ことから、ロードレース規則に準じて規則化することが決定し、次回委員会にて規則案を審議することとなった。

## 5. 参加者増加・底辺層拡大策について

### 1) MFJ VISION とライセンス取得者推移

- ・ MFJ VISION のスーパーモト部分が確認された。
- ・ 2005 年から 2014 年までのスーパーモトライセンス取得者の推移、スーパーモトライセンス所持者の他種目の取得状況が報告された。また現在の全日本およびエリアの参加状況が報告された。

### 2) VISION に対する参加者増加策の検討

#### (ア) 現参加者のモチベーションアップ

全日本 S1PRO クラスの役割位置づけの再確認【上昇志向のライダーの目標としてあるべき】

#### ① S1 PRO クラス特化策の評価

##### 決定事項

S1PRO クラスで現在実施されている「決勝 2 レース制」「タイヤ 1 セット制限」は効果があるとされ、継続実施することが決定した。

#### ② 新たな施策の検討

S1PRO クラスのレースの魅力向上をはじめ全日本選手権の活性化を図るための施策について意見が交わされ、来年から全日本ロードレースで行われているような入賞車両の部品買取制度を導入することが決定した。なお車両自体の買取については次戦に出場できない可能性もあるため見送ることとされた。

##### 決定事項

2016 年より全日本スーパーモト選手権において、入賞した車両の部品買い取り制度を導入する。  
(入賞車両の対象部品の購入希望者がいた場合、当該車両のライダーまたはエントラントは規則により定められた価格にて当該部品を販売しなければならない)

##### ● 対象クラス

全日本スーパーモト選手権 全クラス (S1 PRO、S1 OPEN、S2)

※購入申請者は当該クラスレース参加者に限る

##### ● 対象部品

クラス別上位 3 位までに入賞した車両の下記部品

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| ・ エンジンアッセンブリー (スプロケットを除く) | ・ フロントサスペンション |
| ・ リアサスペンション               | ・ E C U       |

なお、買取価格設定、実際の購入方法等については MFJ 事務局にて案を策定し、次回委員会にて詳細を決定することとなった。

#### ③ S1PRO クラスの登録枠の見直し

S1PRO クラスのエントリー台数が減少していることから、ライダーの入れ替えなどによりクラスの活性化を図るため登録条件の見直しが審議された。

#### <現状の課題>

- ・ S1 PRO クラスのエントリー台数が 10 台前後に減ってきている。
- ・ 2014 実績で最終ランキング 10 位以下の選手は、全ラウンドの半分しか参加していない。
- ・ S2 クラスランキング 2 位、3 位（昇格選択可能）の選手はほとんど翌年 S1PRO クラスに参加しない。（昇格しない）
- ・ S-1OPEN クラスからの昇格者でも 2～3 年で実力的にかなわないと感じてレース参加を辞めてしまう選手もいる。

#### 決定事項

2016 年より、S1PRO クラスの登録資格を下記の通り変更する。

- ・ S1PRO クラス最大登録人数を **27 名**とする。
- ・ 前年度 **S2 クラスランキング 1 位の選手も選択制**に変更する。（自動昇格から変更）
- ・ 前年度 **S1PRO クラスランキング 16 位以下の選手も、希望すれば S1PRO クラスに残留可能とする。**
- ・ エントリー時点で 27 台に満たない場合は、27 台までワイルドカードでの出場を認める。

上記の規則変更を MFJ ホームページおよび、全日本第 4 戦会場にて公示することとなった。

#### ④ エリア選手権施策

#### 決定事項

全日本併催を除く大会の決勝 2 レース制実施について確認され、来年も継続する。

#### ⑤ 参加者向け情報の迅速化

エリア選手権のリザルト、ランキングのホームページでの公示が遅い、またはされていないことが多く、参加者のモチベーション低下につながっているとの意見がライダーから寄せられたことが報告され、大会前、大会終了後、特にリザルト、ランキングの公示について可能な限り早期に行い、各所のホームページ等で連携していくことが確認された。

なお、ランキングについては、各主催者からの開催報告を迅速に提出いただき、事務局で処理した後、各主催者および SMJ のホームページにて掲載することとなった。

#### (イ) 潜在的な参加者の掘り起し

##### ① 地域的な対策

2014 年のスーパーモトライセンスの地区別分布が確認され、ライセンス所持者の多い、関東地区、中部地区をフォローする体制づくりについて検討された。

各地区において普及に協力いただける販売店や施設などキーマンを選出すべきだが、まずは各地区の状況把握とレース開催をしっかりと行っていくことを優先することとなった。

##### ② 他種目ライダー・入門ライダーの参加しやすい環境の構築

- 公認期限切れの市販車車両のエリア参加希望状況

すでに公認期限切れになっている D トラッカーなどの市販車車両が参加希望者が多ければ、

改めて車両メーカーへ公認申請を依頼すべきとして、現在の状況が確認されたが、現状では、参加希望台数は多くなく、現状では公認申請を依頼する状況ではないことが確認され、状況が変われば改めて対応を検討することとなった。

- スーパーモトの参加促進ツールの作成など

レース入門者に対するレースに参加するにはどうしたらよいかという情報が不足していることが課題であるという意見が出され、参加者を増やすために以下の内容で情報を集約しホームページでの情報提供や配布ツールの作成を進めることとなった。

#### 決定事項

スーパーモト参加者増加を目的とし、下記内容の情報を集約しホームページに掲載して、施設や販売店などからリンクしていただく。またパンフレットなど作成しイベント会場で配布し認知度アップを図る。

##### <内容>

- ・ レース入門者向けの基本情報（マシン、装備などの紹介）
- ・ 入門者むけスーパーモトイベント情報  
HSR「モタード SUNDAY レース」・SUGO「SUGO モタゴッコ」エビス「エビスモタデューロ」  
うず潮「スーパーモタカート」・スクール情報（桶川ほか） など
- ・ レースに必要なライセンスの取得方法
- ・ スーパーモト取扱いショップリスト紹介

#### (ウ) 認知度アップによる底上げ

##### ① メディア対策（MFJ 広報部会との連携）

全日本スーパーモトに取材にこられるプレスの数も減っており、二輪専門媒体への露出も減っていることからメディア対策も必要になっている。

広報部会では、全日本開催の 1 か月前と 1 週間前の 2 度、メディア向けのプレスリリースをメール配信しているので、全日本スーパーモトについても、大会の基本情報や観戦料金、地元ライダーの情報などメディア向けの情報をできるだけ早く提供いただくよう各主催者へ要望された。

## 6. その他

### 1) 競技役員のポイント制度について

競技役員の実務ポイントスケール変更案（2016 年度より）が事務局より提案され承認された。

以上